

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 直接リプログラミングによる長期生存能を持つメモリーT細胞の誘導
2. 研究代表者： 籠谷 勇紀（慶應義塾大学 医学部 教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、未分化メモリー形質を有する T 細胞に特徴的な転写ネットワークを、終末分化状態に陥った T 細胞に再構築することで、長期生存能を再獲得させることを目指している。

フェーズ 1 では、T 細胞リプログラミング法を探索し、3 つの転写因子のノックアウトにより、セントラルメモリー形質の再獲得が見出された。目標達成に向けて精力的に取り組んでおり、成果も十分に得られている。フェーズ 2 の研究計画において、一過性遺伝子抑制による抗腫瘍効果の上昇が見出せれば、さらにブレークスルーとなる。フェーズ 1 の研究の成果をさらに発展させ、臨床応用まで進めるとともに、共同研究（PI ポリアミドによる転写活性阻害やアンチセンスオリゴ DNA による翻訳阻害）の発展を期待する。

以上